

# 名戸ヶ谷ビオトープだより

第17号

2005年2月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

## 残雪の中、第4回総会無事終了

1月22日(日)、残雪で凍てついた道をはるばる駅から歩くというハプニングがありました。名戸ヶ谷ビオトープを育てる会第4回総会は予定通り10時～11時45分の時間帯で柏市環境ステーションホールで開催され、無事に終了しました。議長(三坂副会長)報告を受けたあと、篠崎会長の挨拶があり、ついで第1号～3号の各議案の審議が行われました。



### 第1号議案 (2005年度活動報告・決算・監査報告):

若干の質疑(「生きもの部会」を「植物部会」と「ホタル・生きもの部会」に分けた理由は何か、メールを持たない会員への連絡体制はどうなっているのか)と応答が交わされた後、議案は承認されました。

### 2006年度組織構成図



注記: 部会に変わった量増加がある。  
人数は2006年1月末現在の概数

### 第2号議案

(2006年度活動予定および予算案):

活動予定全般について篠崎会長が説明した後、各部会の幹事から詳細な補足説明がありました(P.2 各部会2006年度活動予定表参照)。また、影山幹事から「2006年度予算案」について、春山幹事からは2006年度広報活動計画について説明がありました。篠崎会長から「役員一覧表」の説明がありました。若干の質疑(広報誌の郵送ができないか、「柏ホタルの会」との関係性をどう考えるか、Aゾーンの絶滅危惧種(植物)について部会間の連絡を密にしたい、等)の後、第2号議案も承認されました。

### 第3号議案 (会則の一部改定):

第2章「組織」の第3条(会員)の規定を一部改定し、「会の趣旨に賛同して、活動維持費を年会費として納入するものを賛助会員とする」を追加する。これに併せて、第3章「会計」の第10条(会費)の規定に、「賛助会員の年会費は一口3000円とし、一口以上を納入する」を追加する。各議案が全て無事に承認された後、篠崎会長によるプロジェクターを使った「名戸ヶ谷ビオトープの生きもの」の解説があり、日頃看過していた名戸ヶ谷ビオトープに対する新たな認識をみんなで共有し、12時半に全ての行事を終了しました。(広報編集部)

	全般	不耕起稲作部会	水田稲作部会	植物部会	ホタル・生きもの部会
06/01	1/22 第4回総会	・溝・畦の補修			・土手、水路、池の整備作業
06/02	2/1 17号発行 2/4 定例幹事会	・溝・畦の補修 ・苗の予約	・2/18 畦直し (全員で)		・湿地帯整備 ・植樹・巻貝放流
06/03	3/4 定例幹事会	・溝・畦補修 ・米糠散布	・3/18 田起し(全員で)	・大型植物の発芽状況調査	・生態調査・アメリカリガニ除去・ハイボタル幼虫放流
06/04	4/1 18号発行 4/1 定例幹事会	・溝・畦補修 ・田植え準備(水田内を平坦に)	・苗の予約 ・4/15 田起こし ・4/29 代掻き	・大型植物(ヨシ・ヒメガマ)の刈り取り	3月の予定と同じ
06/05	5/6 定例幹事会	・田植え(全員)	・5/2 代掻き(小学生) ・5/8 田植え(小学生) ・5/20 草刈(全)	ヨシ・ヒメガマの刈り取り	・生きもの観察会、全域生態調査、ホタル・生きもの、植生管理
06/06	6/1 19号発行 6/3 定例幹事会	・草取り(水田と畦)	・6/17 雑草とり(全員)	・大型植物、帰化植物、刈り取り(ミドリハッカ)	5月の予定と同じ
06/07	7/1 定例幹事会	・水落とし(水深10cm) 稲の倒れ防止	・7/4 雑草取り ・7/15(雑草取り、全員) ・7/29 雀ネット	・大型植物、ミドリハッカ、の刈り取り	・ホタル観察会 ・ホタルの採卵・幼虫飼育
06/08	8/1 20号発行 8/5 定例幹事会	・水落とし ・雀対策ネット張り	・8/19 雑草取り(全員)	・大型植物、アメリカンダングサ、の刈り取り	・ホタルの採卵と幼虫飼育
06/09	9/2 定例幹事会	・稲刈り ・脱穀	・ネットはずし ・稲刈り(名戸小) ・脱穀(名戸小)	・帰化植物(アメリカンダングサ)の刈り取り	・生きもの観察会、ビオトープ全域生態調査
06/10	10/1 21号発行 10/7 定例幹事会	・粳摺り・精米 ・藁・糠散布	・10/21 収穫祭(全員)	・大型植物(マコエ)の刈り取り	・9月と同じ
06/11	11/4 定例幹事会 ・収穫祭	・米の配布 ・収穫祭	・11/18 ふれあいの集い		・水路等環境整備作業
06/12	12/1 22号発行 12/2 定例幹事会	・畦・溝補修 ・正月飾り作り	・12/16 大掃除(全員)	・年末大掃除	・水路等環境整備作業

# 年末大掃除・正月飾り作り

暮も押し迫った12月24日(土)、9:30分、ビオトープ集合で大掃除を行いました。田圃や畦に散らかっているゴミやビニール類を袋に拾い集めたり、掲示されていた「ビオトープだより」が掲示板から誰かによって剥ぎとられて捨てられているのを発見し、掲示板を板で補修



する、等の作業もしました。次々と顔を出す人も増え、全部で16名が参加しました。



人数が増えてきたところで、倉庫前にシートを敷き、「正月飾り」づくりをしました。昨年秋の名戸小学校庭での出張講習に参加した6名の姿もあって、みんな手馴れたもの。要領を身につけた会員がネズミ講のように増えたことも驚きでした。(広報編集部)

## 水田稲作部会



水田稲作部会は今年も名戸ヶ谷小学校の子どもたちとの作業が主になります。子どもたちに自然を守り、無農薬で、かつ手作業で「米づくり」する大変さ、みんなで力を合わせて作業する楽しさや役割の大切さを少しでもわかってもらえたら、と考えます。作業は平日になりますので、会員みなさんの指導が必要です。ご協力をお願いします。P.2に掲載の2006年度活動予定表は2005年度の実績を参考に考えてみましたが、天候により変動があると思います。基本的には定例作業日(毎月第3土曜日)に集まっていただき、予定を確認してください。尚、名戸ヶ谷小学校の作業日は火曜日で設定しています。したがって、名戸ヶ谷小学校の作業日は平日となりますので、他部会の会員のみなさんのご協力も昨年同様よろしくお願いします。

総会後の会員名簿ができ次第、会員のみなさんには改めて連絡網でお知らせしますのでよろしくお願いします。(小笠原 智)

## 不耕起稲作部会

## 子どもたちの教育につながる部会に

今年も参加して楽しい交流の場となり、子どもたちの教育・環境改善に繋がる部会にしましょう。不耕起栽培による米作りも今年は4年目になります。過去3年間の基礎的経験から、環境に優しく、化学肥料無しで、無農薬での米作りに自信が持てる年にしたい。周囲の溝や畦の維持、水管理の安定、イネミズゾウムシ対策を進めます。岩澤信夫先生の著書「不耕起でよみがえる」の理解と実践に努力したい。日本不耕起栽培普及会と交流し、先人の経験を取り入れる機会をつくります。(才川寿磨)

## ホタル・生きもの部会



2月には他の生きものたちに先駆けてニホンアカガエルの卵がビオトープのあちこちに見られるようになります。いよいよ生きものたちが動き出す季節となってきました。今年もビオトープの生きものたちの記録を残していきたいと考えています。また一方、ホタルエリアでは、隣接する病院看護師寮の1Fの託児所が24時間点灯しており、エリアへの影響が懸念されます。対策をみなさんと一緒に検討していきたいです。ご協力をお願いいたします。(松清 智洋)

# ビオトープの生きもの



## キタテハ タテハチョウ科

成虫で越冬し、早いものは3月初めになると陽だまりなどで見ることができる。春最も早く飛ぶ蝶である。日本全国の平地、低地で見ることができる。一般の道路や空き地で、どこでも見ることができるカナムグラが食草で、幼虫はカナムグラの葉をつづって巣をつくり、その中にひそんでいる。写真は秋型で5～6月に産卵し、これが成虫になったものが夏型で、秋型にくらべて明るい色をしている。秋型は10～11月ごろ現れる。羽根はリバーシブルで、裏面は黒に近い暗褐色である。



## ハクセキレイ セキレイ科

「チチン チチン」と澄んだ声で鳴く。白と黒と灰とのコントラストがあざやかな鳥で、主に北日本で繁殖するが千葉県では年間観察することができる。市街地の道路やビルの屋上、水田、ヨシ原など、どこでも見かけるようになった。二足歩行で早足である。主に水辺で昆虫を食べている。地上のくぼみや石の間などで営巣するが、最近は自家の軒下でもつくるようになった。繁殖期の5～7月以外は夜間集合して橋桁の下や倉庫の軒先、街路樹などで過ごすことが多くなった。成虫は夏になると衣替えをし、背がオスは黒色となり、メスは暗灰色となる。(篠崎 将)

## 植物部会 活動計画

## 毎月第3土曜日が作業日です

目標： 植物の多様性を維持する(2004年度に確認した湿地性植物54種とヒメヘビイチゴを極力維持する)  
動物が住みやすい植物環境を整える

活動計画： 植生調査 \*各地点の植生の変化(前年対比)を調べ、消滅のおそれがある植物の状況を把握する。  
\* 消滅のおそれがある植物の保護対策を検討する。  
\* Bゾーンの大型植物(ガマ・ヨシ)群落と動物との関係を調べ、群落の必要性とその規模などを再検討する。

植生管理作業(Bゾーンについて)

除草計画(おおむね昨年と同じ)

\* \* 北側： 大型植物(ガマ・コガマ以外)は刈り取り、小型植物の多様性を維持する。  
消滅のおそれがある植物を移植して保護を図る区域とする。

\* \* 南側： 木道周囲と畦道跡の大型植物は刈り取り、景観保護と小型植物の維持を図る。  
動物が住みやすい環境としての大型植物群落を維持する。(佐々木 光正)

編集後記： この冬は異常な寒波の襲来と全国各地に記録的な大雪。世界規模での地球の悲鳴が聞こえてくるようです。残雪の中で開かれた第4回総会も雪の記憶と共に私たちの記憶に残ることでしょう。しかし、19世紀の詩人シェレイは「西風への賦」の中で希望をうたいます - 「冬来たりなば春遠からじ」。ニホンアカガエルの卵がビオトープのあちこちに見られるのももうすぐです。

なお、今号から広報誌の名称を短く、呼びやすくしました。

広報編集部(春山)